

2019年度

事業活動報告書



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

I. 法人の概要

(令和2年3月31日現在)

法人の名称	公益財団法人吉野川紀の川源流物語
設立年月日	平成14年4月1日 平成24年4月1日名称変更し、移行したことにより設立
定款に定める目的	この法人は、「樹と水と人の共生」を目指し、吉野川・紀の川の源流部を拠点に、その自然的価値、文化的価値を大切に、流域をはじめ都市部の人々にこれを伝え、共に考え、行動するため、体験学習・交流活動を通じて、広く啓発や環境教育に関する事業を行う。そして、これに必要な拠点施設や関連公共施設の維持管理・運営に関する事業を行い、源流域の自然環境保全活動に努める。これらの活動により、流域をはじめ都市部の人々と水源地域を結び、もってそれらの人々の公共利益に寄与することを目的とする。
定款に定める事業内容	この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。 (1) 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業 ① 「吉野川源流－水源地の森」体験学習プログラムの提供 ② 森づくり体験学習プログラムの提供 ③ 体験学習を通じた環境教育の実施及び支援 ④ 水源地域の環境保全にかかわる人材の育成 (2) 流域交流・啓発にかかわる事業 ① 水源地域の自然及び文化を介した交流行事の実施 ② 水源地域の環境保全の普及啓発のための行事等の開催、印刷物等の刊行、電子情報媒体の作成 (3) 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業 ① 水源地域及び流域における参加型観察調査会の実施 ② 「吉野川源流－水源地の森」自然実態調査の実施 ③ 源流部における斜面崩壊地での対策実験及び経過観察の実施 (4) 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業 ① 展示を通じて情報発信を行う施設の管理・運営 ② 源流部での体験活動の拠点となる森とこれに付随する施設の管理 (5) 学習教材や、啓発関連物品等の販売 (6) 他団体からの依頼にもとづいてこの法人が構築する情報や技術によって対応可能な業務の受託 (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業 2 前項第1号から第4号までの事業は、公益目的事業とし、奈良県内で行う。
主たる事務所	〒639-3553 奈良県吉野郡川上村大字迫 1374 番地の1

<p>役 員 等</p>	<p>評議員（五十音順）</p> <p>青山 幸嗣（奈良県水道局長） 泉谷 隆夫（川上村議会総務文教委員長） 浦西 勉（元龍谷大学教授） 新井 寿彦（川上村教育委員会次長） 霜上 民生（一般社団法人近畿建設協会理事長） 白井 光典（和歌山市企業局長） 杉本 晃一（川上村定住促進課長） 西山 栄作（和歌山県企画部地域振興局地域政策課長） 東谷 八宗（川上村議会議長） 宮岸 幸正（大阪工業大学副学長） 宮田 典和（橋本市水道環境部長） 山下 保典（奈良県地域振興部長）</p> <p>理事（代表理事・業務執行理事を除き五十音順）</p> <p>栗山 忠昭 代表理事・理事長（川上村長） 阪口 和久 代表理事・副理事長（川上村副村長） 森脇 深 業務執行理事（川上村水源地課長） 池田 昌義（奈良県地域振興部エネルギー・土地水資源調整課長） 辻谷 達雄（元 森と水の源流館館長） 西久保 智美（コミュニティーライター） 橋本 裕行（奈良県立橿原考古学研究所企画部企画課長） 宮口 侗迪（早稲田大学名誉教授） 横田 岳人（龍谷大学准教授 教養教育センター副センター長）</p> <p>監事（五十音順）</p> <p>辰巳 八郎（川上村監査委員） 中島 誠（税理士）</p>
<p>主 な 会 議</p>	<p>定例理事会 6月 7日（前年度事業報告及び決算の件ほか） 定時評議員会 6月24日（評議員選任の件、理事の選任の件 前年度事業報告及び計算書類等の承認） 臨時理事会 6月24日（業務執行理事の選定） 定例理事会 3月26日（次年度事業計画及び収支予算書の件ほか）</p>

II. 事業の状況

公益事業Ⅰ	環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業			
<p>吉野川・紀の川の源流及び水源地域の自然環境や文化を資源とした環境学習及び体験等のプログラム実施を通じて、環境保全や保護についてともに考え、行動するきっかけを提供する。そして流域をはじめ都市部の人々と水源地域の交流を促進し、これらの地域の環境に対する意識の向上ならびに環境保全に寄与する。</p>				
	時期	回数	参加数等	概要
水源地の森ツアー(一般公募型)	4・7・11月	3回	45名	「水源地の森」での体験学習
団体(企業含む)研修等での利用	通年	73件	1,747名	水源地の森散策や森づくり体験等
環境教育支援(学校対応)	通年	79件	4,077名	小学校から大学の見学案内及び出張源流教室
森と水の源流館授業づくりセミナー	7.8.1月	5回	44名	近畿 ESD コンソーシアムとの連携事業で教員のための授業計画づくり
源流学の森づくり (源流人会等の活動)	4・8・11月	3回	47名	一旦伐採された二次林での森林整理作業。他団体との活動交流
草刈りボランティアの機会づくり (川上村「未来への風景づくり」)	6・9月	2回	27名	旧白屋地区の草刈り・外来種駆除を行い、水源地域の環境保全にかかわる人材育成

公益事業Ⅱ	流域交流・啓発にかかわる事業			
<p>吉野川・紀の川流域をはじめ都市部の人々と相互に交流することによって、源流及び水源地域の自然環境や文化的価値を見出し、大切に守り育てていくことを目的とした啓発イベントや講座を実施する。そして自然環境について高い意識をもった人材育成につなげることで、これらの地域環境保全ならびに向上に寄与する。</p>				
	時期	回数	参加数等	概要
夏休み(館内)プログラム	7～8月	10種	89名	観察ノート、羽子づくり、竹とんぼづくり、ほか企画展と連動し実施
源流のつどい	7・1月	2回	32名	東熊野街道ウォーク、氷瀑ツアー
川上村環境基本計画推進業務	通年	1回	11名	住民参加の「環境クラブ活動」(流域学習会は中止)
森守募金キャンペーン on おはなしカーニバル	5月26日	1回	200名	多様な団体とともに実行委員会形式で運営に参加し募金を呼びかけ
流域等各地へのPRキャラバン	通年	6回	150名	橿原市昆虫館虫まつり、紀伊風土記の丘まつりほかへ出展
機関誌『ぼたり』発行	7・11・3月	3回	-	財団の動きや各事業報告・調査レポートなど

公益事業Ⅲ	源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業			
吉野川・紀の川流域の源流部における自然的価値及び文化的価値を大切にするため、流域をはじめ都市部の人々にも参加を求めながら調査・研究を行い、その成果の発信を行うことを通じて、これらの地域の環境保全ならびに向上に寄与する。				
	時期	回数	参加数等	概要
吉野川紀の川しらべ隊	5・7・8月	3回	233名	参加体験型でのコケ・水生生物・昆虫の観察 9月の「鳴く虫」観察会は中止
旧白屋地区の定期観察と発信	4～11月	13回	—	白屋地区の植物や昆虫などの定期観察。卒業研究の場として学生が参加し、併せて報告会を開催。
水源地の森自然環境調査	9・3月	4回	16名	両生類・爬虫類の調査
専門家による調査・研究	6・9・10・12月	6回	19名	下層植生・魚類・昆虫など研究者の調査支援
地域おこし協力隊受入による調査研究・発信	通年	—	—	昆虫を指標とする地域環境の把握、発信。教材の開発など

公益事業Ⅳ	拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業			
水源地域における環境保全の啓発や環境教育を行う拠点となる施設やフィールドを一体的に維持管理及び運営を行うことで、地域環境保全ならびに向上に寄与する。				
	時期	回数	参加数等	概要
「森と水の源流館」管理	通年	—	利用者 11,043名	日常の維持・管理、運営、定期点検、清掃、補修 空調改修工事のため12/2～3/31まで休館
企画展「あの頃の夏休み」	6/29～ 9/30	—	期間利用者 4,078名	新元号の年に“あの頃”を懐かしみ村民他の参加型の展示を実施 イベントとの連動や、既存の展示、ショップとも関連付けて展開
「吉野川源流—水源地の森」管理	通年	59回	—	散策路周辺の見回り・点検、補修 (入山者475名)
「水源地の森交流施設」管理	通年	18回	—	水源地の森に付帯する休憩・管理施設の見回り・点検、補修 管理棟の適正な利用を呼び掛ける注意看板を設置

収益事業Ⅰ	ミュージアムショップ事業
拠点施設において、訪問の記念となる品とともに、源流及び水源地域の支援・PR並びに自然環境の保全・啓発等に寄与する関連商品の販売を行う。	
概要	
オリジナル商品(副読本・絵本・ポストカード・楽曲CDなど)、地域の自然・歴史・文化・伝承を紹介した商品(書籍・地図など)、村内で生産された商品(ペットボトル入湧水・雑貨品など)、自然観察用品(野帳・ルーペなど)。夏休み・企画展などに合わせ、関連する書籍や商品を適宜販売。企画展「あの頃の夏休み」に連動し、売り場模様替えや商品構成の変更を行った。	

収益事業Ⅱ	受託事業		
他団体からの依頼にもとづいて当財団が構築する情報や技術によって対応可能な業務を受託し、実施する。			
	委託者	時期	概要
和歌山市民の森管理業務委託	和歌山市	8～3月	3haの二次林管理作業
和歌山市民の森源流体験学習業務委託	和歌山市	10・11月	水源地の森学習会として実施
水のつながりプロジェクト実施等に係る業務	川上村	4～12月	農作業や源流散策など平野部との相互交流事業実施支援、報告書作成
吉野川紀の川型流域連携モデルの具現化業務	川上村	6～3月	上流・中流・下流のめぐみと人をテーマにつながり視覚化・PR展開
東京海上日動(和歌山支店) 「GreenGift 地球元気プログラム」	日本NPO センター	10～9月	子どもたちへの環境保護に関する体験活動の企画・運営
啓発用間伐材割箸セット製作	森林環境保全促進 和歌山市議会議員連盟	3月	和歌山市内での啓発活動のためのメッセージ入台紙付の間伐材割箸企画製作

公益事業Ⅰ 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業

一般公募や団体の要望により企画する「水源地の森ツアー」のほか、源流地域の自然や文化にふれる体験型ツアーを含めた研修の受け入れを行った。

【一般公募型 水源地の森ツアー】

4月・7月・11月開催、45名が参加。



【企業や行政など団体による研修等の利用】



奈良県新規採用職員研修 (4/12)



国家公務員・川上村役場初任者研修 (7/4)



国土交通省 水源地域支援ネットワーク会議 (9/26 左：事例発表 右：意見交換会)



関西電力労働組合森づくり（11/8・9）除伐作業と地域への貢献活動（集落内清掃活動）

【環境教育支援(学校対応)】

森林環境学習の受入れや「出張源流教室」を実施。森林環境保全促進和歌山市議会議員連盟から和歌山市教育委員会への呼びかけでも実施。



橿原市立畝傍南小学校 4年生（5/14）



出張源流教室（23件）

【森と水の源流館授業づくりセミナー(近畿 ESD コンソーシアム)】

現役小学校教員を対象に実際に学校で行う授業の単元計画作成に対し、奈良教育大学が指導にあたるセミナー。森と水の源流館で5回連続で開催。川上村内の公園で昆虫採集の実習を含めて開催した。



【ESD の取組発信】

川上村や吉野川紀の川流域にかかわる素材を教材化し、ESD に取り組んだそれぞれの教員から多様な場で取り組み報告が行われた。(12/26・27 近畿 ESD コンソーシアム成果発表会・実践交流会、1/11 近畿 ESD フォーラム、2/8 全国世界遺産学習サミット、2/15 橋本市立あやの台小学校 ESD フェスタなど) また 8/2 には龍谷大学での教員免許状更新講習において「SDGs・ESDの推進における博物館等の活用例」と題して取り組みを報告。



【源流人会の活動】

水源地域の環境保全にかかわる人材育成。山村で培われた知恵、技を「源流学」として共有。他地域で活動する団体の会員との相互交流を実施した。



「源流学の森づくり」(4/27・11/23)



「白屋草刈りボランティア」(6/2・9/28)



大和川源流域の保全活動を行っている NPO 法人山野草の里づくりの会と活動地域を相互に訪問する交流会。(桜井市 8/24、7 月の川上村での実施分は台風により中止)

【水源地の森守募金】

川上村などと共催する「おはなしカーニバル」での募金イベントのほか、通年にわたって募金を呼びかけ、教材ポスターの印刷や「水源地の森」での啓発看板制作に活用した。



おはなしカーニバル(5/26)

啓発看板の製作・設置→

三之公『山の神』について

山の神には、いろいろな言われかがあるが、吉野ではイワナガ姫を神さんとしてお祀りしている。イワナガ姫は、オオヤマツミノカミの娘で、コノハナサクヤ姫の姉である。『古事記』にも書かれてあるが、ニニギノミコトが日向の岬で、美しいコノハナサクヤ姫を見初め、結婚を申し込んだところ、父に相談したいと返事をし、父親はイワナガ姫とともに嫁がせたそう。その後、醜い顔をしたイワナガ姫は、実家に帰され、怒った父親は「わたしが娘二人を差し上げたのは、イワナガ姫は、その名の通り、体力、気力ともに抜群に強く、天孫が岩のように永遠のものになるようにと願ひ、またコノハナサクヤ姫を留め、イワナガ姫を返したことは、天御子といえども花が散るように、もろくはかないものとなりましょう」と言い送ったとある。吉野の人たちは、そのイワナガ姫を山の神として大切に祀ってきた。山に入る日は、山始めの日といって、安全を祈願して山の神をまつ。それは伐採の時だけでなく、新しい山に入る時は必ず行う「山入りの行事」として、若い衆も必ずしている。

以上 辻谷達雄「子どもたちに伝えたい『源流学』-山の神-」
(森と水の源流館機関誌『ばたり』28号2014年12月発行)より

この祠は辻谷氏が中心となって創り、2002年にここに設置されました。それから年3回、6月・11月・1月の7日に山の神をまつる行事を行っています。

い けい 「畏敬の念を忘れたらあかん！」

自然と共に生きてきた村の人々の教えです。いつも自然を大切に、時に見せる自然の怖さにも、しっかり備え、謙虚な気持ちで、自然に向かい合うことを伝えています。

森と水の源流館

【流域等各地での情報発信・PR、啓発活動】

流域市町村で開催される行事への出展のほか、協力団体が参加、開催する行事での出展。



根来山元気の森里山まつり (4/29)



かしはらなびプラザ (6/29)



風土記の丘まつり (11/3)



近畿 ESD コンソーシアム実践交流会 (12/26)

【夏休み(館内)プログラム】

例年の「宿題応援」プログラムや外部講師による体験プログラムは、すべて企画展「あの頃の夏休み」に関連付けた内容として実施。



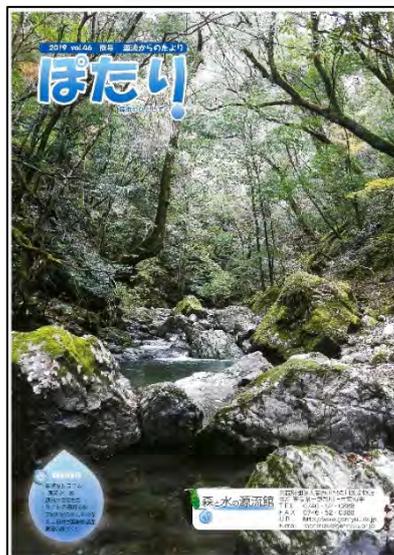
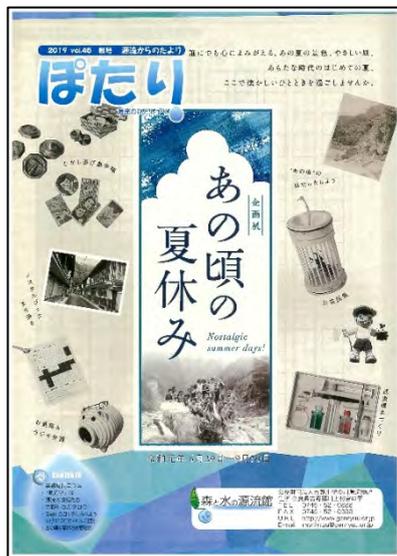
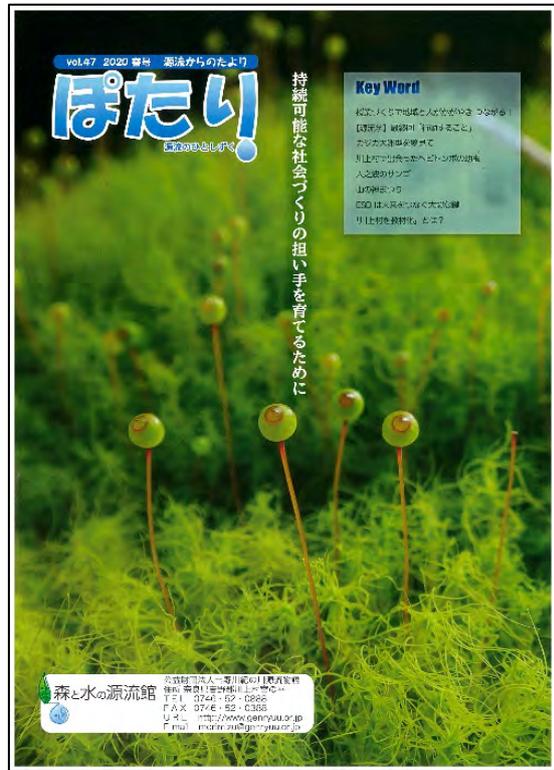
「羽子づくり」(7/14)



「竹かっぽづくり」(7/28)

【機関誌『ぼたり』No.45・46・47号発刊】

活動報告や調査結果などを記載し、夏・冬・春の定期発刊。源流人会会員、村内観光施設、村内図書館、国会図書館ほかへ配布している。各号では企画展「あの頃の夏休み」や「源流の日」「ESD」などを特集。



公益事業Ⅲ 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業

調査事業では、源流地域の環境の実態把握と周知をねらいとして、流域をはじめ都市部の人々に協力を呼び掛けた参加型の調査も実施した。

【吉野川紀の川しらべ隊】

川上村内のほか、吉野町など流域市町村をフィールドに観察会を実施。

(9/21の「鳴く虫」の観察会は台風の影響により中止)



「吉野山のコケをしらべよう」(5/6 吉野町)



「夏の虫をしらべよう」(7/13 川上村)



「水生生物をしらべよう」(8/3 川上村)



【専門家や研究者による調査・視察】



「水源地の森」下層植生調査(6/8・9 9/22・23)



龍谷大学学生の卒業研究での蛾類調査
結果報告とともに標本寄贈を受ける

【地域おこし協力隊による調査研究・発信事業】

地域おこし協力隊として1名を受け入れ、調査研究や交流事業に従事。3年間のうちの2年目。吉野川紀の川流域で活動する自然環境保全・体験活動団体と連携した流域フィールド調査。水生生物観察会等の指導、ESD の視点をいかした学校配布用教材の作成などに取り組んだ。



「吉野川・紀の川流域つながり絵巻」教材ポスターの製作

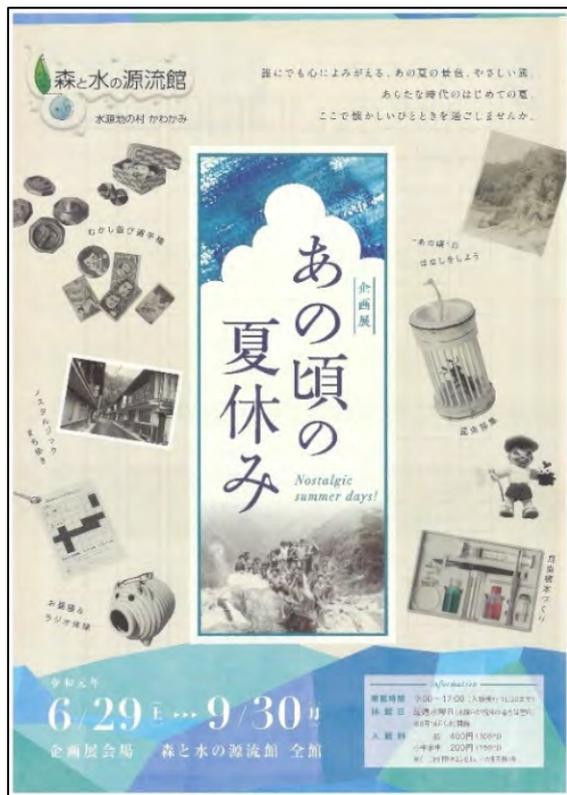


白屋地区をフィールドに奈良教育大学の卒業研究を指導。この結果とともに財団としての経年調査報告の場づくりを企画。当初の予定が新型コロナウイルス感染拡大防止対策により中止となり、2/29 オンライン報告会のかたちで開催した。

公益事業Ⅳ 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業

【「森と水の源流館」の管理】

指定管理協定にもとづき施設の維持管理、案内や企画展・歳時展示・速報展示を実施。
企画展「あの頃の夏休み」を開催。常設展示・ミュージアムショップなど館全体を用いた展示とした。また村制130周年に合わせて、森と水の源流館開館からの18年の歩みを振り返る展示と、事業の中で採集した希少な冬虫夏草の速報展示も行った。



企画展ポスター・チラシ



展示は川上小学校も授業で活用



企画展と関連したイベントも開催
上「ノスタルジックまち歩き」(7/21)
下「むかし遊び選手権」(8/25)

ミュージアムショップでも連動展開↓

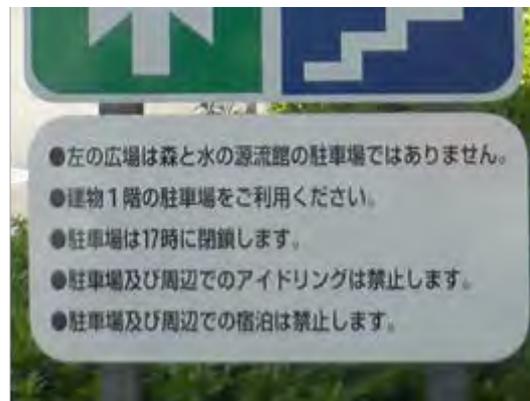




「森と水の源流館 18年間のあゆみ」(11/16)



速報展示「ヤンマタケ」(9/8～11/30)

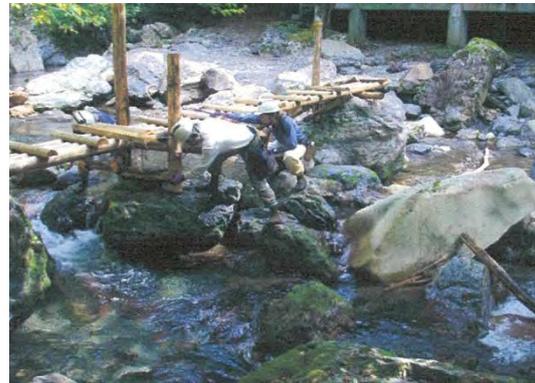


館周辺の駐車に関する注意喚起看板増設

【「吉野川源流－水源地の森」・「水源地の森交流施設」の管理】

「水源地の森」及び休憩小屋・管理棟の定期的な見回り・点検・清掃・修繕を実施。

大雨で流出した木橋の復旧などを実施。管理棟周辺でバーベキューなどの行為が見られるようになったことから禁止看板を設置。





「吉野川源流－水源地の森」管理棟について

この施設は「吉野川源流－水源地の森」を管理するため、川上村が設置したものです。施設の無断利用によって生じた事故・負傷については、一切責任を負いません。

次のことを禁止します

- ① 火気の使用・キャンプ等を行うこと。
Any use of fire and camping are prohibited.
- ② 敷地および建物の周囲に、無断で長時間駐車すること。
Long-term parking on the site and around the building are prohibited.

トイレの利用について（ご自由に利用下さい）
環境に優しいバイオトイレを設置しています。次に利用される方のため、以下のことを守って、きれいにお使いください。

- 備え付けの紙以外を捨てないでください。
Do not throw away anything other than the paper provided.
- 使用後は必ず消灯してください。
Be sure to turn the light off after use.
- 使用後は換気のため窓を開けてください。
Please open the windows for ventilation after use.
- 水道は建物外のものをご利用ください。
Please use the water that is provided outside the building.

「吉野川源流－水源地の森」は一般の方の入山はお断りしております。

川上村役場：0746-52-0111 （公財）吉野川紀の川源流物語：0746-52-0888



「水源地の森」入口の「山の神」の祠に立てている鳥居の手入れや畏敬の念を持って自然へ接することを呼びかける看板を設置した。

収益事業（受託事業）

【和歌山市民の森源流体験学習業務】(和歌山市)

平成 16 年度から継続する和歌山市民の森づくり事業。現在は、「水源地の森」での学習会を実施している。(10/26、11/17 実施)



【水のつながりプロジェクト実施等に関する業務】(川上村)

大和平野土地改良区の農作業の体験を通じて、源流部と平野部の小学校の交流事業。



田植え体験(6/14)(橿原市内)



稲刈り体験(10/17)(橿原市内)



源流体験(左:子ども向け源流体験(9/12))



お米贈呈式(11/29)

【吉野川紀の川型流域連携モデルの具現化業務】(川上村)

吉野川流域の産業従事者や教育関係機関を中心とするキーパーソンとともに取組む「紀の川じるし」の活動を進めた。3月に恒例となった紀の川市での「紀の川じるしの見本市」は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止となった。しかし川上村地域振興課が主体となって川上村での見本市が3回実施され、これを支援した。



「紀の川じるし見本市」 紀の川市では中止 川上村での「紀の川じるし見本市」(7/15)

【啓発用間伐材割箸セット作成】(森林環境保全促進和歌山市議会議員連盟)

同議員連盟の活動として配布する啓発ツールを製作。



パブリシティ（新聞ほか掲載記事）

田植え体験に歓声

橿原で「水のつながりプロジェクト」

希望ヶ丘小と川上小が交流 生き物観察も

水源地と大和平野の子どもたちの交流を図る事業の一環で、川上村立川上小

学校の5年生2人と大淀町立希望ヶ丘小学校の5年生40人は14日、橿原市田中町の「水源地交流水田」で田植えを体験した。

川上村と大和平野土地改良区が「水のつながりプロジェクト」として平成24年度から実施。今年は初めて吉野川中流域から大淀町の小学校が参加した。

子どもたちのほとんどが田植え初体験。慣れない水田に入るとはしゃぎ声を上げ、尻もちをつく児童がいるとひとときわ歓声が沸いた。地元農家がつくる「田中町水十里の会」の会員からアドバイスを受けながら、一列に並んで苗を植え



一列に並んで田植えに挑戦する児童ら＝14日、橿原市田中町の水源地交流水田

ていった。

田植え後は、「森と水の源流館」（同村）の古山暁さんが、田んぼで見つけた生き物の観察を通して水

に関するミニ授業を行った。秋には両校児童が稲刈りも体験する。川上小の福本陽向君（10）は「初めての体験で楽しか

った」（福本じゅあきん（10）は「上流からきれいな水を流していきたい」。希望ヶ丘小の福島咲愛さん（10）は「土の中は軟らかくて新鮮な感覚だった」、中力翔君（11）は「稲刈りが楽しみ」とそれぞれ話した。

網片手に昆虫採集

橿原で「ならの虫観察会」家族連れら40人参加

県の「ならの虫観察会」が14日、橿原市南山町の市昆虫館周辺地域で行われ、人が参加。昆虫の専門家か

らアドバイスを受けながら、木の枝などに生息するアゲハチョウの幼虫などを採集した。

県内に生息する生き物を身近に感じてもらうと初めて実施。元大阪市立自然史博物館長の宮武頼生さんや、同館の木村史明館長ら4人が講師となり、捕獲したカナブンとカブトムシの違いや、カマキリを飼育するには大量のエサが必要なことなどを説明した。



昆虫の専門家（右端）から説明を聞く家族連れら＝14日、橿原市南山町

奈良市のパート木村真基子さん（45）は、夫と小学3年生の長男（9）と参加。「子供が虫好きなので、これまで見たことのない虫が採集できれば」と話した。

時忘れ 柏木歩く

川上村東部の中心地で、かつては大峰山への修験道が立ち並ぶ宿場町として栄えた「柏木」地区を歩く。「ノスタルジックまち歩き」柏木をめぐる」が21日にある。谷崎潤一郎の『吉野葛』にも「柏木に至って一泊」と出てくる地区。大正・昭和で時が止まったような柏木で一日、時間を忘れて過ごしませんか。

【菅原健一】



大正時代に改築した建物がそのまま残る老舗旅館「朝日館」
川上村柏木で

「森と水の源流館」（同村迫）の主催。午前9時半に柏木バス停横の村井商店前に集合。同商店で買い物などをした後、地元の木工名人の工房を見学し、喫茶「秀」で名水コーヒーを味わう予定。

朝日館見どころ

見どころは、1881（明治14）年創業の老舗旅館「朝日館」。柏木に残る最後の修験道で、現在の建物は1918（大正7）年に改築した当時のたたずまいを残す。窓などは大正ガラスがその

21日にイベント 大正・昭和のたたずまい

まま使われており、ゆがみのあるすりガラスは、昭和生まれの人なら「おじいちゃん、おばあちゃんの家」を思い出させる懐かしさだ。

おかみの辻美美子さん（73）は、35年ほど前に俳優の故・三國連太郎さんが泊まりに来たことを覚えていて。近年では米国やフランス、オランダなど海外からも観光客が訪れ、「関西空港からレンタカーで2時間で来られる秘境」との評判だ。2年前にインドから来た夫婦は「日本の本物の古い建物を見に来た」と話していたという。

参加費は一般4000円、小中高生3000円。定員15人。申し込みは「森と水の源流館」（0746・52・0888）で、16日必着。希望者は朝日館の当日限定特別ランチ（2000円）が注文できる。

水家の夏休み2019 (森と水の源流館)編

「紀の川」のESDのテーマソング

水の旅のはなし

詞：尾上忠大 曲：松谷文英 (森と水の源流館)

お・い・し・い・ね このお水
 ど・か・ら・も ながるの？
 こ・の・川・に ながるの？
 い・く・た・ま ながるの？
 し・や・あ・い ながるの？
 り・や・あ・い ながるの？
 い・く・た・ま ながるの？
 こ・の・川・に ながるの？



水源の森 吉野川上流 大迫ダム

お・い・し・い・ね このお水
 ど・か・ら・も ながるの？
 こ・の・川・に ながるの？
 い・く・た・ま ながるの？
 し・や・あ・い ながるの？
 り・や・あ・い ながるの？
 い・く・た・ま ながるの？
 こ・の・川・に ながるの？

大漁だ！

お・い・し・い・ね このお水
 ど・か・ら・も ながるの？
 こ・の・川・に ながるの？
 い・く・た・ま ながるの？
 し・や・あ・い ながるの？
 り・や・あ・い ながるの？
 い・く・た・ま ながるの？
 こ・の・川・に ながるの？

吉野川分水は 御所の庄屋 高橋佐助さん 悲願だった！

お・い・し・い・ね このお水
 ど・か・ら・も ながるの？
 こ・の・川・に ながるの？
 い・く・た・ま ながるの？
 し・や・あ・い ながるの？
 り・や・あ・い ながるの？
 い・く・た・ま ながるの？
 こ・の・川・に ながるの？

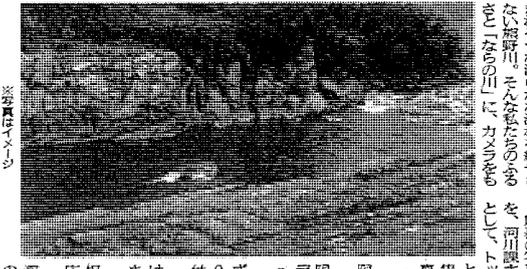


生態系、環境保全を学ぶ

トヨタソーシャルフェス「昨年の水生生物を調べよう」の様子
川上村西河の橋の周辺

トヨタソーシャルフェス「昨年の水生生物を調べよう」の様子。川上村西河の橋の周辺で、参加者が水生生物の調査を行っている。

生命の源「水」



※写真：尾上忠大

ふるさとの川の「四季」撮影
 1. 春の川
 2. 夏の川
 3. 秋の川
 4. 冬の川

ふるさとの川の「四季」撮影
 1. 春の川
 2. 夏の川
 3. 秋の川
 4. 冬の川

ふるさとの川の「四季」撮影
 1. 春の川
 2. 夏の川
 3. 秋の川
 4. 冬の川

参加無料・小雨決行

お里澤市ウォーク

明日香から豊阪寺まで歩いて歩こう！！
このウォークイベントは、お里澤市をめぐって歩くことのできる貴重な機会です。

スタート・集合場所：近鉄飛鳥駅
ゴール・解散：豊阪寺 (高取町豊阪寺)

タイムスケジュール
 9:30 集合・受付
 10:00 ウォーク開始
 12:00 豊阪寺到着
 13:00 大講堂で常盤住職の法話
 13:30 高石さんのミニコンサート
 14:00頃 充分休憩後・解散

参加費：無料
 申込先着順につき、定員になり次第締め切らせていただきます。

申込方法
 8月1日、FAX、Eメールで代表者の住所、氏名、電話番号、参加人数(40名程度)、参加費の戻金(明記の上、下記までお申込みください)を奈良新聞社 奈良和友社「お里澤市ウォーク」係へお申し込みください。
 〒836-0247 奈良県磯城郡田原町本町485-1
 問い合わせ ☎0744-34-1221 Eメール: planning@nara-np.co.jp FAX: 0744-34-1222

「持続可能な社会をつくる」

それを担う人材の育成という

テーマに、森と水の源流館では

どうかかわるか？

ESD (Education for Sustainable Development) とは、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育の推進をめざし、奈良教育大学を核として、教育機関や教育・学習施設、また企業などが参加する近畿ESDコンソーシアムに加わっています。本年度もESD講習として当館との連携による「授業づくりセミナー」が開催され、奈良県内と和歌山県内の小学校の先生が、同じ「源流」にある川上村に集まり、水の恵みや吉野川分水などをテーマに授業づくりを行っています。

(くわしくは、「近畿ESDコンソーシアム」で検索下さい)
 また森林環境保全推進和歌山県議会議員連盟の取組において、和歌山県内の小学校へ「紀の川」のESDのテーマソング「水の旅のはなし」を教材とした出前講座を開催しています。

「紀の川」のESDの展開として

森と水の源流館授業づくりセミナーや

出前講座を開催しています。

ESD (Education for Sustainable Development) とは、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育の推進をめざし、奈良教育大学を核として、教育機関や教育・学習施設、また企業などが参加する近畿ESDコンソーシアムに加わっています。本年度もESD講習として当館との連携による「授業づくりセミナー」が開催され、奈良県内と和歌山県内の小学校の先生が、同じ「源流」にある川上村に集まり、水の恵みや吉野川分水などをテーマに授業づくりを行っています。

(くわしくは、「近畿ESDコンソーシアム」で検索下さい)
 また森林環境保全推進和歌山県議会議員連盟の取組において、和歌山県内の小学校へ「紀の川」のESDのテーマソング「水の旅のはなし」を教材とした出前講座を開催しています。

森と水の源流館
 水源の村かかわみ
 〒630-3553 奈良県吉野郡川上村1374-1(2F) 2F
 電話 0746-52-0388 FAX 0746-52-0388
<http://www.genryuu.or.jp>
 公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

家族連れら水環境学習 川上でフェス



音無川で生き物を採集する参加者。3日、川上村西河

見た触れた 川の生き物

地域の環境保全を目的としたイベント「TOYOTA SOCIAL FES

(トヨタソーシャルフェス)」（森と水の源流館、奈良新聞社主催）が3日、川上村西河で開かれた。参加した親子連れら約180人は、川の生き物を観察して豊かな水環境を学んだ。

「きれいな吉野川を未来に残そう」をテーマに開催。栗山忠昭川上村長が「川での遊びの中から環境

や自然を学んでください」と開会あいさつをした。

参加者は吉野川支流の音無川に入り、網やざるを使って生き物を採集。きれいな水に生息する生き物が多く見つかり、県水生生物研究会会長の谷幸三さんが生物の特徴や自然の大切さを解説した。カジカガエルの吸盤に触れる体験もあり、子どもたちは興味深々に感触を試していた。

開会式では平成24年のロンドン五輪に総合馬術で出場した弓良隆行さんが登場し、来年の東京五輪・パラリンピックに向けて馬術の魅力を紹介した。乗馬クラブクレインの協力でホニーも来場し、参加者は触れ台を楽しんだ。家族と参加した生駒市の八木航太郎君(5)は「オタマジャクシと小魚が取れてうれしかった。また川遊びがしたい」とうれしそうに語った。

場した弓良隆行さんが登場し、来年の東京五輪・パラリンピックに向けて馬術の魅力を紹介した。乗馬クラブクレインの協力でホニーも来場し、参加者は触れ台を楽しんだ。家族と参加した生駒市の八木航太郎君(5)は「オタマジャクシと小魚が取れてうれしかった。また川遊びがしたい」とうれしそうに語った。

夜に活発 昆虫見つけたノ

川上で採集イベント

夜間に活動する昆虫を採集するイベントが、川上村東川の村立施設「匠の聚」周辺であり、家族連れ15人が参加した。子どもたちがカプトムシやコガネムシなどを捕まえ、喜んだ。



樹液がたまり、虫が集まる。クヌギやアベマキなど

外灯のそばでカプトムシを捕まえた子どもたち（川上村で）

「どによくいる」と解説。カミキリムシやセミなどを捕って子どもたちに見せ

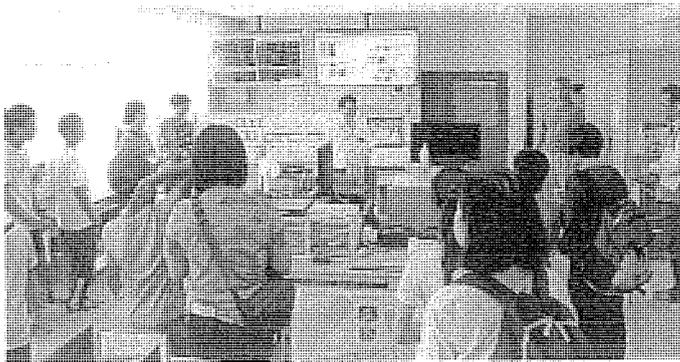
た。

屋外灯のそばでは「光に集まった虫が落ちて下に生えている草に隠れている」と習性を説明し、参加者は草むらを探した。

一家で雄雌のカプトムシを捕まえた大阪府豊中市立刀根山小4年の森蒼介君（9）は「夜は虫がたくさん動いているので、また捕りに行きたい」と興味津々だった。

水源地の役割知って

源流トレッキングツアー
川上村内で



管理所で職員から大迫ダムの説明を受ける参加者ら＝1日、川上村北和田

大迫ダムや原生林を見学

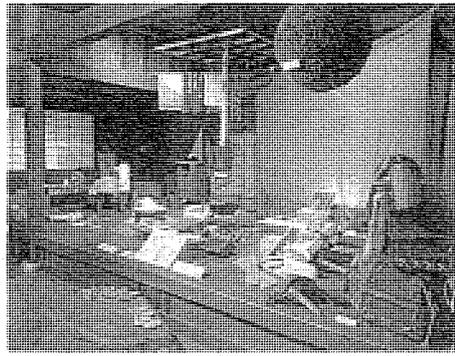
大和平野の田畑をうるおす吉野川分水の役割を学ぶ。源流トレッキングツアーが1日、川上村内で行われた。

県内外の親子連れら21人が参加した。吉野川分水を管理する大和平野土地改良区（橿原市）と川上村が毎年開催している。

同改良区事務所をバスで出発し、大迫ダムを経由し、村が保全する水源地の森をめぐるコース。同ダムの管理所では職員がダムの規模や水を農業、上下水道、発電に活用していることを紹介。参加者は「大雨の時の対応」「放水量の管理」といった疑問を質問した。水源地の森では同村の「森と水の源流館」の職員が原生林を案内した。

また、近くの吉野川河川敷で清掃活動を行い、バーベキューなど川遊びのこみも拾った。参加者は源流と平野のつながりを体感した。

昔の暮らしから学ぼう 森と水の源流館で企画展



昭和期の家電などが設置されている古民家

昭和期の家電や遊び道具などが並ぶ企画展「あの頃の夏休み」が、森と水の源流館（川上村）で開催されている。9月30日まで。

昔の暮らしから知恵と工夫を学び、道具の使い方や自然との接し方を見つめ直してもらおうと企画。常設展示の古民家「天明の家」に黒電話など昭和期の家電を展示しているほか、ペーゴマやメンコ、お手玉といった昔の遊び道具など計約30点を紹介している。

担当者は「子供からお年寄りまで3世代で、未来に残したいものを見つけても



昔懐かしいペーゴマ（左）とコマ（ともに森と水の源流館提供）

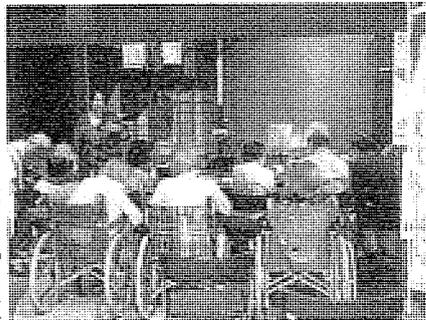
らえたら」と話している。今月25日には関連イベントとして「むかし遊び選手権」を開催。ペーゴマの回転時間を競う「ペーゴマタ

イムトライアル」や、ひっくり返したメンコの枚数を競う「めんこファイター」など4種目が行われ、優勝者には村内で使える「お買い物券」が贈られる。

開館時間は午前9時～午後5時（入館は午後4時半まで）。水曜休館。入館料は高校生以上400円、小学生200円。問い合わせは同館（0746・52・0888）まで。

川上村

昔の思い出を話そう デイサービス利用者楽しむ



森と水の源流館の企画展「あの頃の夏休み」の関連イベント「あの頃のなしをしよう」が7月30日と8月5日に、川上村迫の同館2階「天明の家」で行われた。写真。デイサービス利用者が対象。懐かしい仕事道具や、遊び道具を手にしながら思い出話を映かせた。参加者は「物が豊かな今と比べて大変なこと多かったが、どれも思い出」と語った。

昭和の子どもの遊び方



ブリキの中がこ（手前）や昆虫採集セットが並ぶ会場（川上村で）

川上昆虫採集セットや箱眼鏡

川上村の「森と水の源流館」で、昭和の玩具や昆虫採集セットなど村民から寄せられた道具約30点を並べた企画展「あの頃の夏休み」が開かれている。外で遊んでいた子どもたちの姿が懐かしめる。9月30日まで。

昆虫標本を作るための注

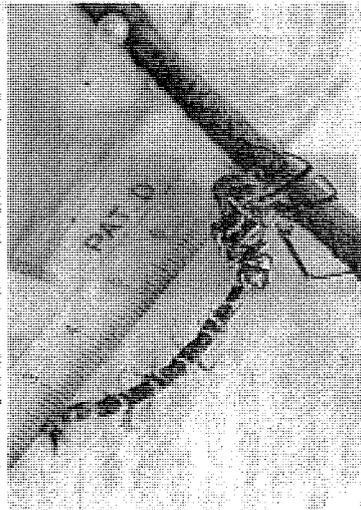
補るために水中がのそける「箱眼鏡」など、山の暮らしがわかる道具もある。あやとりやペーゴマなどの使い方はパネルで解説した。企画した館職員の古山曉さん（38）は「自然から知恵と工夫を学んだ昔の遊びに思いを寄せてほしい」と話す。水曜休館。入館料は一般400円、小中学生200円。

8月25日は、羽根つきやペーゴマ、メンコなどを4人チームで競う関連イベント「むかし遊び選手権」を開く。優勝賞品は村内で使える1万円相当の買い物券。31日は、昆虫標本づくり（小学生以上、入館料込み1000円）が体験できる。申し込みは源流館（0746・52・0888）。

寄生キノコ「冬虫夏草」トンボに宿る

川上で「ヤンマタケ」

虫に寄生し、養分を奪って成長するキノコ、冬虫夏草（とうちゅうかそう）の一種でトンボに宿る「ヤンマタケ」が川上村で見つかった。県内での報告事例は珍しいという。同村迫の森と水の源流館で8日から展示されている。



トンボに寄生した冬虫夏草。全身から生えている突起がヤンマタケ。川上村迫の森と水の源流館

冬虫夏草は、生きてる虫に寄生した菌が虫の体を浸食し、栄養を奪い、体を突き破って成長。宿主は死ぬが、キノコはそのまま生長する。トンボは体長6センチのミルヤンマで、

「森と水の源流館」で展示

全身から5センチ前後のオレンジ色の冬虫夏草約30本が生えている。同館職員は古山曉さん(38)が2日、同村西河の「蜻蛉(せいらい)の滝」近くの公園で枯れ枝についた状態で偶然見つけ、

県内での報告 珍しく



科の寄生キノコ「ヤンマタケ」がトンボに寄生した。カマムシ、ツカメカメムシ、カマムシ、ツカメカメムシ

3日に枝と採取した。「蜻蛉の滝」周辺には、狩りをしていた雄略天皇を刺したアブを、トンボがかみ殺したという伝説が伝わる。トンボつなりの緑を、村の多様な生物を知ってもらう機会にしようと展示を決めた。

展示では、今年村内で見つかったカマムシ(体長1.2センチ)に寄生する「カマムシタケ」(長さ5〜10センチ)も展示している。

ヤンマタケは温暖な溪流沿いの森林に生息するといひ、古山さんは「森林が保全されている村だから見つかった。奇妙な冬虫夏草を入りに、身の回りの自然環境に目を向けてもらえたら」としている。

森と水の源流館は11月30日まで無料のロビーでこれらを展示。問い合わせは同館、電話 0746(52)0888。

冬虫夏草 蜻蛉伝説の地に 川上で発見

昆虫から生えるキノコ・冬虫夏草の一種でトンボに寄生する「ヤンマタケ」が、川上村で見つかった。県内で発見の報告例は少ないといひ、8日から森と水の源流館(川上村迫)で展示される。

内をしながら最中に枯れ枝に付いているのを偶然見つけた。3日に枝と採取し、「村の多様な生物を知ってもらう機会にしたい」と展示を決めた。

森と水の源流館職員の古山曉さん(38)が2日、川上村西河の「蜻蛉の滝」近くで、自然観察ツアーの案

トンボは体長6センチのミルヤンマで、全身から長さ4〜5センチのオレンジ色の冬虫夏草が約30本、生えている。冬虫夏草は、虫に寄生した菌が、宿主を殺して栄

養を取り、体を突き破って成長する。蜻蛉の滝は、雄略天皇が

付近で狩りの最中にひじを刺したアブを、蜻蛉(トンボ)がかみ殺したという伝説にちなみ、そう呼ばれるようになったという。古山さんは「冬虫夏草は探して見つかるものではないが、

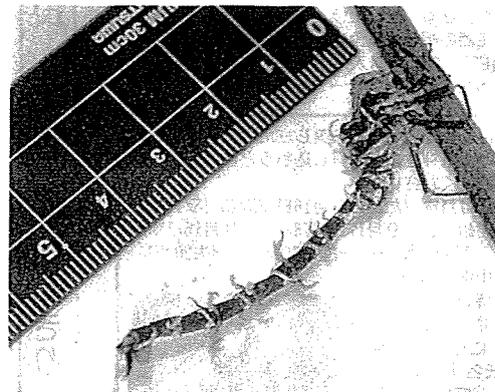
トンボの伝説の地で発見できたことは奇跡だ」と驚いている。

森と水の源流館(0746・52・0888)では、11月30日まで無料のロビーで展示する。



冬虫夏草に寄生されたトンボ。全身から生えているオレンジ色の突起が「ヤンマタケ」(3日、川上村で)

トンボに宿るキノコ発見



トンボに寄生し体を突き破って成長したオレンジ色の冬虫夏草「ヤンマタケ」=いずれも川上村の「森と水の源流館」で

源流館 11月まで展示

【川上】昆虫を宿主として成長するキノコ「冬虫夏草」の一種「ヤンマタケ」が川上村西河の、トンボにゆかりのある「蜻蛉の滝」近くで見つかった。県内での報告事例は少ない。「村の多様な生物を知ってもらおう」と森と水の源流館（同村迫）で展示されている。【置原健一】

伝説の地「蜻蛉の滝」で



見つけたのは同館職員の高山 暁さん38。今月9日に「蜻蛉の滝」周辺で自然観察ツアーの案内をしていた時に偶然発見し、3日に採集した。

「発見した時はまずオレンジ色が目に飛び込んできた」と話す。森と水の源流館職員の高山 暁さん。

（トンボ）が食べたという話が古事記や日本書紀に記されている。高山さんは「トンボの伝説の地で見つけたのは驚き。湿潤な溪流沿いの森林で生息するヤンマタケの発見は、川上村の森林の豊かさの証し」と話す。同館の無料のロビーで11月30日まで展示する。問い合わせは同館（0746・52・0888）。

産経新聞 R1. 9.21

地域ニュース

トンボに寄生 「ヤンマタケ」

冬虫夏草 川上で発見・展示



昆虫を宿主として成長する冬虫夏草のキノコで、トンボに寄生する「ヤンマタケ」が川上村西河の溪流沿いで見つかった。県内では報告例が少なく、村の生物の多様さを知ってもらおうと森と水の源流館（同村迫）がロビーで展示している。昆虫に詳しい高山さんによると、生きたトンボ類にトンボに寄生して成長した、発見時のヤンマタケは森と水の源流館提供。

「村の生物の多様さ知って」

寄生するヤンマタケはトンボの養分で成長、その後キノコを生やすという。村内で見つかった、カメムシを宿主にしたカメムシタケも同時展示している。高山さんは「冬虫夏草は奇妙な姿だが、自然を注意深く観察しないと気づかない。村の水がきれいでトンボが生息しやすい森が多く残っており、こうした自然に目を向けるきっかけにもらえたら」と話す。展示は11月30日まで。水曜休館。問い合わせは同館（0746・52・0888）。（置原健也）

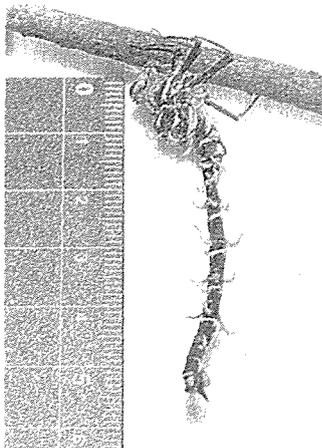
トンボに寄生するキノコ発見

30

昆虫などに寄生するキノコ「冬虫夏草」の一種で、トンボを宿主とする「ヤンマタケ」が川上村で見つかった。県内で冬虫夏草の報告例は少ないといわれ、「自然に興味を持つきっかけにしてみられれば」と同村の「森と水の源流館」ロビーで展示されている。

川上村・森と水の源流館で展示

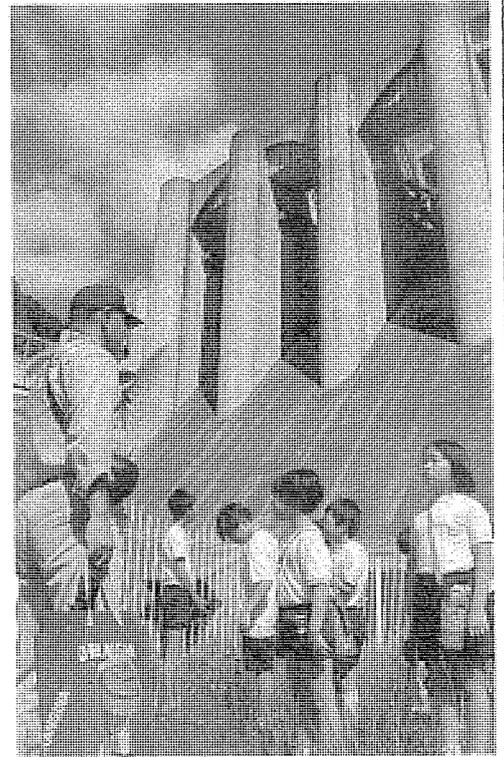
見つかったのは、全長約6センチのミルンヤンマに寄生したヤンマタケ。同館職員の高山暁さん38が今月2日、自然観察ツアーの案内をしていた際、「蜻蛉の滝」（同村西河）付近で枯れ枝に付いているところを見つけた。翌日に採取した。冬虫夏草は昆虫などに寄生して体内の栄養を奪い、宿主が死んだ後に体を突き破って成長する。このミルンヤンマからは、オレンジ



蜻蛉の滝で見つかった冬虫夏草「ヤンマタケ」。トンボの体を突き破って成長している川上村

色のヤンマタケ（長さ5、6センチ）が約30本生えている。伝承によると、滝の付近で狩りをしていた雄略天皇の前にアブが食いついた。これを飛んできた「蜻蛉」（トンボ）がかみ殺したため、天皇は大いに喜び、この地は以来「蜻蛉野」と呼ばれるようになったといわれる。高山さんは「トンボの名前が付いた場所で、ヤンマタケが見つかったのは不思議な縁を感じる」と驚いている。ヤンマタケは、カメムシに寄生する冬虫夏草「カメムシタケ」とともに、11月30日まで同館ロビー（入場無料）に展示される。問い合わせは同館（0746・52・0888）。

大淀希望ヶ丘小と川上小の児童



洪水調整機能など大滝ダムの役割を学ぶ両校の児童ら＝12日、川上村大滝の大滝ダム

「水のつながり」体感

大滝ダムの役割など学ぶ

吉野川（紀の川）源流域の環境や生き物について学ぶ「水のつながりプロジェクト」が12日、川上村内であり、町立大淀希望ヶ丘小（大淀町北野）と村立川上小（川上村西河）の4年生児童計43人が大滝ダムなどを見学した。

児童の交流は、吉野川分水でつながる水源地と盆地の関係を体感する取り組みとして、大和平野土地改良区と村が企画している。大滝ダムを管理する近畿地方整備局紀の川ダム総合管理事務所の職員が、台風や大雨の際に一時的に水を貯めて、洪水が起らないよう調整する機能を説明。水道用排水や工業用水として盆地に供給しているとし

たほか、敷地内の防災ステーションでは昭和34年に村を襲った伊勢湾台風の被害などを学び防災意識を高めた。午前中には吉野川支流の音無川で、専門家を招いた水生生物の観察会も行われた。10月には橿原市の田んぼで両校の5年生が稲刈を体験する。

橿原・水源地交流水田

水のつながり 感じて稲刈り

大和平野土地改良区と川上村などの「水のつながりプロジェクト」が17日、橿原市田中町の水源地交流水田で行われ、川上村立川上小学校の5年生児童3人と、大淀町立大淀希望ヶ丘小学校の5年生児童40人が稲刈りを行った。

川上小・希望ヶ丘小児童ら

米作りの苦労実感

吉野川分水の受益地と水源地のつながりを再認識する取り組み。これまで田植えや、水源地での環境学習などが行われてきた。稲刈りは地元「水土里（みどり）の会」（吉田宗義会長）が指導。児童は鎌を使って慎重に稲を刈り取り、「はさぎけ」までの作業を体験した。開会式で、希望ヶ丘小の鈴木拓翔さん（11）が「田植え後から今まで、田んぼの管理をありがたうございました。丁寧に稲刈りをしますのでよろしくお願いします」とあいさつ。閉会式では、川上小の福本陽向さん（10）が「稲を刈り取りながら、稲が成長するまでに多くの手間と時間がかかっていることを実感しました。また源流の水を大切にしたいと思いました」と話した。



鎌を使って稲刈りをする児童＝17日、橿原市田中町の水源地交流水田

川上のクサギ菜煮 復活

道はたや空き地に生えている雑木クサギの若葉を煮物にする郷土料理が、かつて川上村にあった。野菜が手に入りにくかった村での日常食だったが、苦みやアクを抜くのに手間がかかり、半世紀前に廃れた。「地域の恵みを大切にする地産地消の文化を見直そう」と、森と水の源流館（川上村）が作り方を知らるお年寄りを招き、記憶を頼りに「クサギ菜」料理を復活させた。

高齢者の記憶頼りに

（中井将一郎）

半世紀前までの日常食

「昔の匂いがする」「あ煮物の作り方を教わった。んじょう炊けとるわ」「子ども頃に教えてもらったものんは忘れられんな」。川上村高原の中辻ミエ子さん（89）と阪本カヨ子さん（85）が、顔を合わせて笑った。20分ほど煮込むと、葉はだし汁を吸って膨らみ、食欲をそそる匂いの湯気が上がった。2人とも村で生まれ育ち、祖母からクサギ菜の



「いい色になった」「懐かしい」。クサギ菜の煮物の味付けをしながら鍋をのそき込む中辻さん（左）と阪本さん（川上村で）



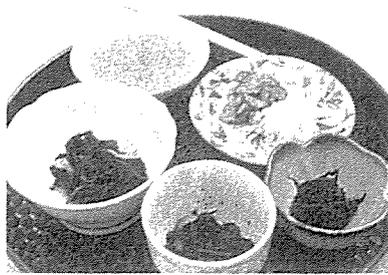
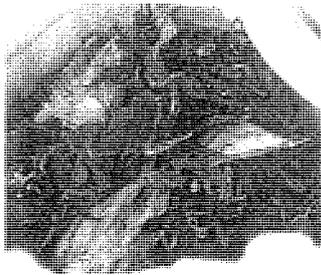
クサギ 落葉小高木で、日当たりのよい野原やヤブに生育。葉を触ると独特の悪臭があり、「臭木」の名の由来とされる。吉野杉の伐採跡や手入れされた山林のへりなどによく生えていたが、放置林が増えたため、以前よりは見かけなくなったという。粒状の実は草木染の材料となり、鮮やかな青色に染まる。

「地域の自然を上手に利用して文化は成り立っている」と意を語った。野草の調理は近年、災害時の食料にもなるとして注目されている。村商工会女性部では今後、みそ造りなどで集まった際にクサギ菜を調理し、郷土料理として伝えていきたいという。参加した商工会職員の落合ゆかさん（55）は「ただの葉っぱにしか見えなかったが、手間暇をかけて、ごちそうにしてきたなんて、すごい文化だ」と感心していた。

「子どもはびっくり連れたって、籠を背負って4里約16キロぐらいい山奥へ採りに行った」「わら草履の替えも持って行ったな」。中辻さんと阪本さんは、しょうゆなどで味付けをしながらクサギ採りの思い出話で盛り上がった。参加者や館職員が、調理のコツや昔の様子を聞き取った。「豆と炊くのが一番の（うちそう）と阪本さんが、懐かしむと、中辻さんは、今は何もかもあつて、せいたくな世の中になつた」としみじみと話した。完成後は全員で煮物を試食。シャッキリと歯ごたえがあり、だしが染み込んで意外に風味豊かだ。参加した主婦井上イトエさん（68）が「タマネギやベーコンと炒め物にしてもおいし（う）と話す中、中辻さんは「自分たちの味を残してくれたい。若い子らが復活させてくれてうれしい」と感慨深げに答えた。

「クサギ菜の煮物」の作り方 ＊村での聞き取りから

- ① 5、6月、芽吹いた5センチ程度までの若葉を摘み取り、熱湯で湯がく。
- ② 一昼夜、水にさらしてアクや苦みを抜き、よくもみながら天日に干す。乾燥すると年中保存できる。
- ③ 乾燥葉を水に入れてゆで、沸騰したら火を止める。そのまま一昼夜、漬けておく。
- ④ 水を捨てて固く絞り、だし汁で煮て味付けする。クサギ菜だけでも、豆やジャガイモ、油揚げなどと合わせた煮物でもいい。



①クサギ菜の煮物（手前左から）ジャガイモ入り、豆入り、菜っ葉、茶がゆと漬物と食べる。乾燥させたクサギの葉



「あれは何？」 「間違って青い草か」 「左から右へ」 「静かです」



根来山げんきの森



こども昆虫調査隊で

不思議ふれよう

岩出市の和歌山県植物公園緑花センター北側に広がる根来山げんきの森で、1年間通して虫について調べている「こども昆虫調査隊」。今年もまだまだ寒い2月から森の中で元気いっぱい活動しています。日本の国のチョウに選ばれているオオムラサキもいるこの森で、みんなもいろんな虫たちに出合ってみませんか？

虫に生えるキノコ？

2007年から活動するこども昆虫調査隊。毎月、小学校低学年の子どもたちを中心に、森の中を歩き回って虫を探しています。教えてくれる先生は、奈良県川上村にある「森と水の源流館」の古山暁さんです。山本珠遠さん(小2)と

オオムラサキ探して

今年初めての調査は2月9日。「これ何？」「クモの仲間の卵やね」「こつちはハラビロカマキリの卵」。子どもたちの質問に、古山さんが答えてくれます。時間を掛けて調べたのは、エノキの木の下。落ち葉の裏に隠れているオオムラサキの幼

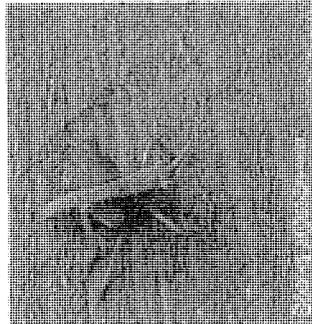


オオムラサキの幼虫は見つからなかったけど、ゴマダラチョウの幼虫(写真左)は11匹発見

虫を探しました。「見つけた！」「あー、これはゴマダラチョウの幼虫」「これは何？」「これもゴマちゃんやね(笑)」。約30分で見つけた目印は全てゴマダラチョウでした。嶋悠愛さん(小5)は虫が大好きな弟、暁玄くん(小2)とこの日初めて参加。オオムラサキの幼虫が見つからず残念だったけど、「これからも参加していきますね」と願っています。

☆根来山げんきの森こども昆虫調査隊：毎月第2日曜午前10時～午後3時。げんきの森管理棟に集合。問い合わせはげんきの森管理棟(0736・61・7233)。

生き物の調べ隊



成虫に似ているけれど...

小さな昆虫だれの子ども？

根来山げんきの森こども昆虫調査隊の質問
4月11日にげんきの森で調査していると、虫の幼虫を発見！成虫に似た形で1センチほどの大きさ(写真)。これはだれの子ども？

調査隊講師の古山暁さん(森と水の源流館・奈良県川上村)によると、枝に似たナナフシの幼虫は触覚が長ければエダナナフシ、短ければナナフシモドキ。キリギリス類の幼虫は、背中の茶色い筋が1本ならヤブキリ、2本ならキリギリスです。ヤブキリは樹の上や藪などに、キリギリスは草はらにいます。そういえば7月半ばころ、この森でヤブキリがシリシリと鳴くのを聞いたことがあります。この幼虫もこれから脱皮を繰り返して、2カ月ほどでおとなへと成長します。

これからの時期、様々な昆虫の幼虫を目にするようになります。「だれ？」なのか、おとなとどう違うのか、調べてみましょう。飼って成長を観察するのもいいですね。

生き物たちの「？」大募集

自分で生き物をよく見て、不思議に思うことを教えてね。ポケットさんが一緒に調べて(考えて)くれるよ。

33
[送ってほしいこと]ペンネームOK [応募先] ニュース和歌山編集部(生き物)

ニュース和歌山 こども昆虫調査隊

ダムで消えた集落 生き物調査5年



景観保全と生き物の生息調査が行われている白屋集落跡。手前は大滝ダム湖＝川上村白屋

川上・森と水の源流館

昆虫203種 植物281種を確認

吉野川上流の川上村の大滝ダム建設に伴い、地滑りで全戸移転を余儀なくされた同村の白屋集落。ダム湖畔に住居の石垣が残る斜面を村が「未来への風景」として再生を図るなか、生き物の生息調査も続けられている。「森と水の源流館」が5年間の成果をまとめた。

大滝ダム建設は1959年の伊勢湾台風がきっかけ。

試験貯水が行われた2003年に大規模な地滑りが発生。日当たりの良い斜面の全37戸が橿原市などへ移転した。13年のダム運用開始後、国が1帯を買い上げ、村が管理した。住居や寺社の建物はなくなつたが、段々の石垣や墓地在約3畝の斜面に残る。この景観を継承しようと、協賛企業など16団体の協力で、植樹などを通じた「未来への風景づくり」を進めている。

源流館もこの一帯で15年から昆虫や植物の調査を開始。これまでにチヨウやバツタなどの昆虫を203種類、植物は石垣や草地などで計281種類を確認した。中でも石垣には植物94種類があり、石垣を頼る植物が多いことが分かった。

草地や水辺など環境別の昆虫の生息割合、草刈りなどの手入れとの生育状況の関係も調べた。

源流館企画調査班のスタッフの古山暁さん(39)は「中山間地の草地の集落跡

を新たな森に再生していく様々なデータが、モデルケースとして役立てばうれしい」と話している。

調査報告会は2月29日に村で開かれる予定だったが、新型コロナウイルスの

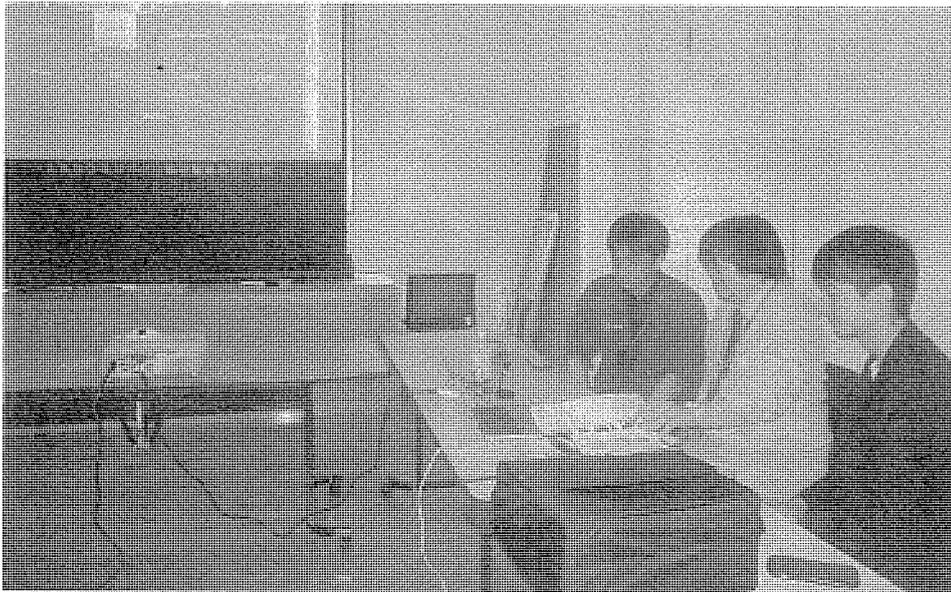
感染拡大に配慮し、中止になった。報告会では、奈良教育大の学生が卒論としてまとめた調査結果も発表予定だった。問い合わせは源流館(0746・52・0888)。(福田純也)

川上村白屋地区

自然生態調査を報告

ウェブ会議

230種の昆虫確認



ウェブ会議で行った生態調査報告会の発表者ら＝27日、川上村東川の匠の聚(むら)

集落に住んでいた全員が村内外に移転した白屋地区は、いったんすべての建物が取り壊され、庭木なども除伐された。その後、風景保全を目的に企業団体に協力を募って植樹を推進している。生態調査は、同村の環境学習施設「森と水の源流館」が中心になって取り組んできた。

報告会は初めてで、地区内の草むらなどではこれまでにもチョウやバッタ、ハチなど約230種の昆虫を確認したことを源流館の企画調査班小山暁さん(39)が報告した。草刈りが行き届かずにススキが生い茂り、放棄地が増大する課題を指摘。刈り取った雑草のたい肥化など草地管理の手法や活用を検討した。

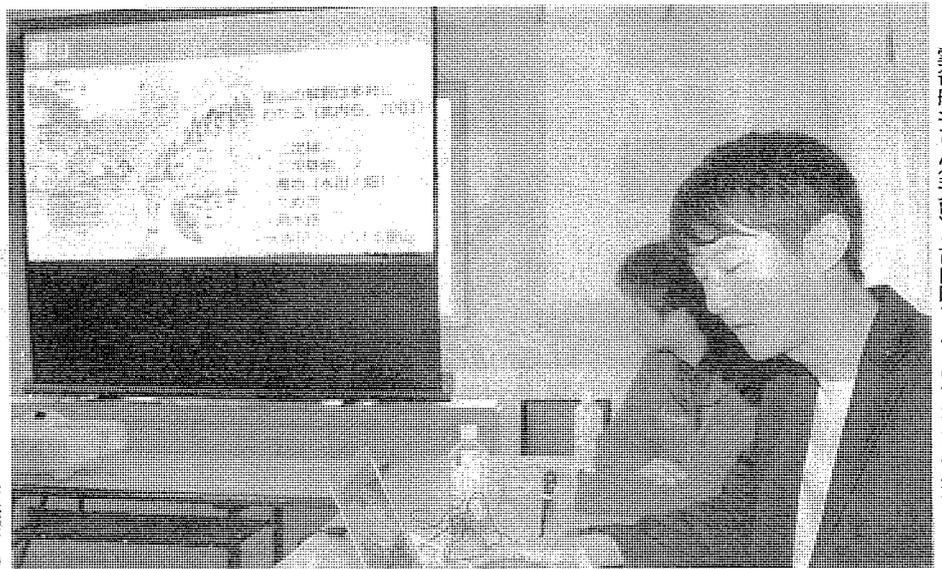
また、奈良教育大学4年生だった令和元年度に同地区の生態調査を行った雲雀(ひばり)航斗さん(22)が、草地保全のシンボルとなるバッタ目に着目した卒

業研究を抜すいで発表。草丈を低くすることで多様なバッタを誘引できるとして、草刈りの規模拡大や土地利用の促進を提言した。
新型コロナウイルス感染拡大防止で、2月の報告会を延期。この日は発表者が同村東川の村の施設に集まり、ウェブ会議用のアプリを利用して村役場や地域おこし協力隊、大学の研究者など16カ所をつないだ。書き込み式で発言するチャットのほか音声やカメラをオンにした双方向機能も活用して意見交換を行った。

オンラインで報告会

森と水の源流館 自然生態調査

オンライン会議で「白屋自然生態調査報告会」を行う
雲雀航斗さん(手前)と古山暁さん(いずれも川上村で



川上

森と水の源流館(川上村迫)は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2月下旬に予定していた「白屋自然生態調査報告会」について、川上総合センター研修室での開催を見送り、代わりにオンライン会議システムを使って3月27日に実施した。同館では初の試み。また村は、空調機器改修のため休館中の同館が今月2日に予定していたリニューアル開館の延期を決めた。同24日まで休館を続け、推移を見守る。

【菅原健一】

オンライン会議での報告は、大滝ダム建設に伴う地滑りで全家庭の移転を余儀なくされた白屋地区集落跡で2015年から行われてきた生態調査。村は同地区を環境教育の場として活用しながら保全する活動を企業などと協力して実施してい

る。5年間の調査でチヨウバツタなど約230種の昆虫が確認され、草地在昆虫の主な生息地となっていることなどが示された。報告を行った同館企画調査班の古山暁さん(39)は、同地区で生い茂る雑草を堆肥化し、地域の人や学生らを巻き込んで伝統野菜などを作る「地域資源の循環モデル」の構築を提案した。

また、奈良教育大を今春卒業した雲雀航斗さん(22)は同地区での生態調査をまとめた卒業論文を発表した。草地保全の象徴としてバツタ目に注目し、人や家畜が草地に入ること



森と水の源流館で準備を進めていたミニ展示「水源地の森と川上村のいきもの」の複製コーナー

が昆虫種の多様性につながる可能性を示して草刈りを年に複数回実施することを提言した。発表者は村の施設に集まり、会議ソフト「Zoom(ズーム)」を使って発信。大学の研究者や地域おこし協力隊ら16力所とつながり、書き込み式のチャットなどで意見交換を行った。古山さんは「面白いツール。発表中に

聴衆の反応が分からないことに戸惑ったが、今後も源流館の授業のツールとして考えていきたい」と話した。休館期間を延長
森と水の源流館は19年12月から空調工事のため休館している。当初予定ではリニューアルの今月2日から、ミニ展示「水源地の森と川上村のいきもの」を開催する予定だったが、吉野川源流域にある森の「知っているように知らない」風景や生き物を写真、パネルで紹介し、ツキノワグマやハクビシンなどの複製と一緒に写真を撮れるコーナーの設置準備を進めていた。同村奥地の吉野川源流域には深い原生林が残されており、村は740畝を公有化して貴重な生態系を守っている。同館は毎年、この「水源地の森」を巡るツアーを開催しているが、今年は4月のツアーを中止とした。



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平

電話 0746-52-0888 FAX0746-52-0388

<http://www.genryuu.or.jp> e-mail: morimizu@genryuu.or.jp